

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価の調査項目です)

取り組んでいきたい項目

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念はあるが、ホームの中だけのことになっている。		地域との関わりを理念の中に取り入れていないので、もう一度検討していきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	その人らしい人生を送っていただけるよう情報収集をしプランに生かし、サービス提供できるよう努力している。		理念はあるがスタッフに浸透しているかは不十分である。もっと会議などで浸透できる働きかけが必要であると考え
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームで行っている行事への参加を呼びかけたり、地域への行事の参加を心かけている。	○	利用者主体の生活をしてもらいたい。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所に散歩へ行った時など、気軽に挨拶をおこなっている。又、散歩の際にはごみ拾いをしている。また、行事などの参加を呼びかけている。		日常的な挨拶やホームで行う行事などへの参加を呼びかけていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの行事には地域の方をお誘いしている。又、地域の行事にも参加している。子供会との交流もある。徒歩5分のところに町公民館があるため、定期的に顔を出している。		夏祭りの開催の宣伝を多くして、より多くの地域の方に参加してもらえようとする。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	施設の行事に声かけしたり、地域の行事に参加はしているが、地域の方に貢献していることはほとんどないと考える。	○	今後、行事への参加や施設で介護教室などを開くことができれば、貢献できるのではと考える。
3. 理念を实践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は会議の中で発表し、スタッフ全員に伝え、改善をはかれるよう検討する機会をもっている。		継続して行きたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、地域・行政・家族の方々の参加を頂き、内情の報告をし、アドバイスを頂きながら、ホームの運営に生かしている。		会議の中でアドバイスを受けてたり、相談内容など、スタッフ会議(月1回)の中で報告・検討しているので、継続していきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	様々な相談やアドバイスを頂くなど、話をする場を作るよう努力している。		行政や包括に入居者や家族のことで相談し、記録として残している。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	講習会、研修会などに参加できるよう努めている。	○	講習会や勉強会などへの参加を促し、職員の一人ひとりが同じレベルの知識をもてるよう努力したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の個性に合わせた対応を心がけ、安心できる生活を送れる様努力している。		職員全員が同じ様な対応ができる様に努力したい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に契約書と重要事項説明書を渡し、目を通してもらい、契約時に説明しながら再度、一緒に読んでもらっている。		契約時にはなくても、その後、不明な点があれば、その都度対応している。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時に家族の方々の意見を聞いたり、面会に来られた際に伺ったりしている。また、それを会議で検討している。	○	定期的に家族が集まる機会を持ち、意見交換したり、施設に対する要望を聞く機会を持ちたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族宛に利用者の日常の様子等を通信にて報告している。		やさしい時間通信にして、家族の方への入居者の様子を伝えている。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へ表せる機会を設けては無いが、家族の方からの意見苦情不満は随時、受け付けている。		家族会などを作り、交流を目的とした機会を設ける。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	特に定期的には行っていないが、年1回は担当者とともに話し合いをする場を設け、意志を伝えている。		一度に全員でなくても、数回にわけ、話し合いをする機会を設けたい。吸い上げた意見はプランに反映させている。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の個性に合わせた対応を心がけ、安心できる生活を送れる様努力している。状況に応じて、また必要に応じて職員確保をしている。話し合いも行っている。		今後も状況に応じ、話し合い、対応したい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎に職員を配置し、支援しているが、職員全員が利用者全員に馴染みの支援ができる様、別ユニットへの移動も行っている。	○	日頃から、ユニット間で職員の日々の交代を行っているので、離職があってもダメージは大きくないと考える。また、日頃から職員の見解を取り入れ、働きやすい環境を作る様努力している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別・年齢による差別は行わず、人間性を重視している。	○	良い意味での個性を生かせる環境にしていきたい。また、採用時には性別・資格の有無を問うことはせず、個人のやる気・雰囲気を重視している。
20	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者に対して、尊厳を持って対応する様に指導するようにしている。	○	尊厳の気持ちをもって、介護支援を行うための指導をしていきたい。
21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等の情報は常に提供している。職員に負担のかからないよう配慮し、育成の機会を作っている。		経験や内容に応じた研修にできる限り参加してもらうための対策を検討したい。
22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	文化祭や勉強会などを積極的に継続的に行っている。	○	同業者の地区の連絡協議会などに参加し、情報交換や交流を図っている。ただ、情報交換の場が少ないを思われ、そのような機会がある時は積極的に参加したい。
23	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の意見や不満がないか、常に施設長が吸い上げ、改善を図るよう努めている。	○	継続して行いたい。
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の勤務状況や特徴を把握し、理解する様に努めている。また、資格取得を勧めたり、給与に反映させている。		職員の意見や提案などに耳を傾け、個々を知り対応する。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談に来られる方法は様々であるが、まず本人に安心してもらえるような雰囲気作り、話を聴くようにしている。		本人の現状を可能な限り知る機会を作りたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでに相談も受け、細かく話し合う事をして信頼関係を築くようにしている。		本人から聴取することは困難な場合があるので、家族の方からも話を伺っている。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	最初の相談は家族でも、必ず本人と一度は来訪してもらい、どのような生活を望んでいるのか、又本人の特徴をとらえるよう努力している。		相談内容にもよるが、何が一番困っていることなのか、話の中から見極め対応し、入居待機の状態となればできる限りのアドバイスを行っている。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族からの情報収集の時、生育歴・結婚歴・生活観などを収集し、又入所してからは、どのような生活パターンをとるのが見極めながらサービス提供している。		本人の生活習慣・性格など、家族からの情報をもとにプラン作成し実行している。また、随時家族とも連絡を取り、希望も交えながらサービス提供している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が仕事をする際は入居者のどなたかに声かけし、洗濯物をたたんだり、モップを掛けたり、ごみ箱を作ったりと一緒に仕事を行っている。		本人ができることを見出し、それが最大限に生かせるよう、働きかけながら、人生の先輩として尊敬していくよう心がける努力をしている。
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	よりよい関係を築いていけるよう努めている。	○	ホームで行う行事などにお誘いのお知らせをし、本人・スタッフとの関係をできるだけもつようにしている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホームで定期的に遠方へ出かける際、家族にも連絡して一緒に同行してもらっている。行事の時には一緒に食事をして頂いている。		家族からの情報をもとに、家族と本人が疎遠にならないよう、面会を促したり、お便りを出したり、つながりを持てるように図っている。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時には馴染みのものを持参して頂いている。家族より写真や手紙が届いた時は居室に飾っている。		仲の良かった友人や兄弟・親類の方などの面会を制限することなく会ってもらったり、家族の写真を部屋に貼っている。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	なるべくホールで過ごして頂き、コーヒータイトム・おやつやホールで行うレクリエーションは、全員声かけをしている。		フロアで過ごす時、レクリエーションの時など、1人にならないよう配慮したり、気のあう方・あわない方など、トラブルがないよう、かかわり方に注意をしている。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設・病院に入所入院された方のお見舞いに伺ったり、亡くなられた方の初盆のお参りまでは必ず行く。	○	入院や転居された場合は、お見舞いや面会に伺ったり、亡くなられた時も家族の方に手紙を書いたり、お参りに行っている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	モニタリングの際には、計画作成担当者が本人に希望や意向を伺っている。困難な場合は、できる限り気持ちを近づけ、読み取るようにしている。また、本人のことをよく知っている身内に話を伺っている。		日々の関わりの中で、その方の思い・意向など、できるだけ読み取るように努力し、家族の方からも情報・意向を伺い、プランに反映させている。
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期アセスメントの際、本人・家族・担当ケアマネージャーに聞き取りしている。その後は常に情報収集をしている(面会に来られる友人などに)。		今後、センター方式を活用し、十分な情報収集ができるようにしたい。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	計画作成担当者は、なるべくホールに出るようにし、日々の様子を観察している。介護職からは『新しくできるようになったこと』など、申し送りしてもらっている。		その方の担当者・勤務者から関わりの中で、その方を捉えることができるよう努力している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人には、居室等の本音と言える場所にて普段のおしゃべり感覚の上で聞き取りをしている。家族には面会時や電話で聞き取りをしている。必要な関係者とは、毎月のスタッフ会議や3ヶ月毎の担当者会議で意見やアイデアを出してもらっている。		課題が出てきた時はスタッフ会議で検討しているが、もっと細かいミーティングが必要ではないかと思われる。今後、計画していきたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変化が現れるごとに、申し送りの後、関係者が集まり、小会議を開催している。その都度、必要項目をケアプランに追加・削除している。		入居者の変化を確実に捉えて申し送り、関係者がおこなうミーティングを今後も確実にやりたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グループホームならではのケアプラン作成を心がけ、個人に応じた多彩なサービスを入れている。ケアプランは介護記録に使用しているインデックスと一緒に閉じ、いつでも、すぐにも確認できるようにしている。		個人の日々の記録は、個別記録に記載されているが、記録の内容・書き方など、勉強会を開き、もっと充実した記録ができるよう努力したい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎月の家族へのお便りに本人の1ヶ月の様子を報告したり写真を載せたりしている。本人や家族から要望があった時はできるだけ受け入れ、柔軟な対応ができています。		要望があった時、必要に応じて行政や包括と連携を取りながら対応している。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	日頃から町の公民館まで散歩に行き、なじみの場になっている。ボランティアや園児がレクリエーションに来られる。消防で開催される講習会に職員は交代で参加している。		ボランティアや地区の子どもの来訪を受け入れたり、必要に応じて警察にも協力を得ている。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	希望される外部サービスがあれば、要望に応じた事業所の選択や代行手続きを行っている。	○	今後、更に情報収集をし、活用できる外部サービスを充実させ、利用者の生活の質向上につなげたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	センター主催の研修会には必ず参加している。2ヶ月毎の運営推進会議には、センター職員が必ず参加される。また、普段から相談を行うなどして協働できている。		左記のことを行っているため、今後も相談・連携をとりながら支援していきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の内科・歯科往診を依頼している。		定期的な訪問診療を受けながら、必要時には紹介医へつなげたり、受診するように支援している。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医への定期受診の際はホーム職員が同行し、診察結果を聞いたり、事例を挙げて相談している。		受診時、職員が付き添うことで、医師と相談でき、アドバイスを受けるなどの支援ができています。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	ホームに看護職員が常勤しているため、日常の健康管理ができ、特変の早期対応もできている。		看護職員が、より専門的な知識を得よう努力し、日常の健康管理に生かせるようにしていきたい。
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、2ヶ月の猶予期間の居室確保を行っており、その期間に数回、家族と共に医療機関の関係者と情報交換し、連携を図っている。		医療機関との関係をより密にとれるよう、今後共家族と一緒に図っていきたい。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居の際、ターミナルケアのアンケートを渡し、身内で充分話し合った上で提出して頂いている。職員は保管先を把握し、緊急時に搬送先にて提示できるよう保管している。		終末期のあり方については、家族の意向も重視しながら、それを文章化し、ファイリングして保管している。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化対応マニュアルを作成し、変化に備えて準備を行っている。	○	本ホームではターミナルケアの取り組みが未経験であるため、職員の知識や技術の向上に努めたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	出来る限り今までの生活が維持できるよう、家族やケアマネから情報をとり本人が混乱しないよう配慮している。		新しい居場所に情報提供をすることによって環境に適応しやすいよう図っている。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声の大きさや声かけの頻度を心がけている。		敬意を払った言葉使いを忘れないようにしたい。また、記録に関しては一人ひとりファイリングし保管している。
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いを表出できる方には対応できている。表出できない方にも、できる限り声かけをし、表情や行動から思いをくみ取れるよう努力している。	○	表出できない方への配慮をもっと行い、ストレスのたまらないよう心配りをしたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間の統一や入浴日のローテーション化が見られる。	○	時間が決まった支援内容は最小限にし、他の時間は入居者個人が自由に過ごせるよう配慮している。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1度、訪問理容を利用している。毎朝替えていただき、続けて同じものを着用しないよう心がけている。		定期的なカットや白髪染めを行ったり、自分で服が選べる方は選んでもらうなど、身だしなみに配慮している。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは担当が決定している。	○	食事準備作業を一緒にする時間を作る。時々、『何を食べたいか』を聞いてメニューに取り入れたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	コーヒー・紅茶などを希望に応じて提供している。家族から預かっているおやつがある方は状況に合わせて提供している。		お茶やおやつの時間など、日によって飲み物を変えたり、喫煙する方がおられる時は、定期的に喫煙できるように配慮している。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄介助を計画している。排泄チェック表を作成し、もれがないよう記入している。		個別的に排泄に誘導したり、オムツやパットを使用している方には、習慣を捉え、できるだけ使用量が少なくなるよう努力している。
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日午前から夕方まで実施しているが、入浴日は職員が決めている。入浴の強要はしておらず、希望に応じている。	○	入浴日は、スタッフが決めているが、拒否があった場合には清拭などの方法に変更するようにしている。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	就寝前には早めに居室の空調を整えるようにしている。必要時は濡れタオルなどを利用し、保温を保っている。就寝前はなるべく穏やかに過ごして頂くよう対応している。		その方の習慣をよく知り、その時間に就寝を促したり、空調を整えるよう配慮している。また、必要な方には午睡をするようにしている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活リハビリを中心に実施している。		生活の中でできることは行ってもらおうよう促したり、散歩などで気分転換を図るようにしている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところ、自分で管理している方はいない。		自分で管理できない方ばかりなので、家族の方の同意を得て、こちらで管理している。また、その報告を家族の方へ郵送している。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や天気により散歩・買い物にお誘いしている。	○	暖かい季節になれば頻度を増やしたい。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月行事として遠方外出を計画している。その際、家族にも声かけて同行して頂いている。	○	外出の際、遠方に出かける時は家族の方にも呼びかけ、参加を促している。
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎはしている。手紙を出すことはない。	○	季節のお便りができるように取り組みたい。電話や手紙のやり取りができる方がいないので、今は行っていないが、希望があれば行いたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気軽に訪問されている。		面会の時間・回数などの制限は行っていないので、いつでも面会できるようにしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員、身体拘束をしない事が前提という意識で努めている。		原則として、拘束は行っていないが、必要と思われる方には家族の同意を得たり、家族が望み、必要と思われる方には行うこともある。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室不在時は本人の希望により施錠している方はいる。玄関は離設防止と防犯の意から常に施錠している。		玄関は要望に応じて開錠するようにしている。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホールには1人職員を常駐させ、離れる際は他の職員に声かけするよう心がけている。		束縛することはしないが、その方の所在は適宜把握を行っている。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	掃除洗剤や消毒類は目の届かないところに保管している。		左記に加え、そのものが本人の見える所にあることで危険と思われるものは目の届かないところに置く。また、椅子や家具の位置なども配慮している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故発生後はスタッフ会議にて報告し、今後の対策をたてるようにしている。		一人ひとりの習慣なども考え、事故防止に取り組んでいる。また、発生時は報告書を記載し、スタッフが振り返りのできるようにしている。
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故ごとにマニュアル作成している。AED講習会を定期的開催している。		スタッフ会議で勉強会をしたり、研修がある時は、スタッフが順番に参加できるようにしている。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	総合避難訓練を年2回実施している。		様々な条件を想定して訓練をおこなっているが、地域の方々への働きかけが行えていない。訓練時に家族や地域の方に、今後働きかけをしたい。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	契約時に、入居後おこりうるリスクについては説明し、その時に行う対応についても説明している。		契約時に説明することに加え、様々なリスクが高くなった場合には、その都度家族に説明し、理解を得るようにしている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、特変の早期発見に努めている。変化がある際は看護職員や、必要であれば主治医に連絡をとっている。		左記に加え、主治医の指示の元、対応している。ただ、連絡を取れる職員に限られているので、全員が主治医報告をできるよう訓練していきたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ケアマネは全員の薬を、各担当は担当入居者の薬を把握している。		本人の記録ファイルに内服している薬の説明書を入れていたため、いつでも見ることができる。また、状態の変化に応じ、薬の調整を主治医と連携をとりながら行っている。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便・水分チェック表を作成し、頻度の確認をしている。		確認に加え、便秘気味の人には、起床時牛乳や水分を取ってもらったり、運動を促している。それでも効果ない時は、下剤調整を主治医と相談している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行っている。口腔ケアチェック表を作成している。		毎食後の口腔ケアはもちろんであるが、夜間は義歯の超音波洗浄器にかけ、保管している。また、訪問歯科により、専門家による口腔内管理を定期的に行っている。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を記入し、水分摂取量はチェック表に記入している。食欲低下時には食べられるものや形態を変えて提供している。		食事形態や食事時間など、一人ひとりに合わせた対応をしている。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種やその他接触・経口感染対策として、手指の消毒や消毒液使用の掃除をしている。流行時には、外部のかたへのマスク着用や手指消毒をお願いしている。		実施は行っているが、マニュアルとして残せていない。今後、作成し、職員に徹底させたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤帯でハイター消毒、又、日中はおしぼり等を日光消毒している。		食材は毎週1回配達してもらい、ストックを最小限にしている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口は広くとり、来訪者の駐車場スペースを確保している(職員は離れた場所に駐車するなどして)。玄関は2重ドアになっており、外側のドアは常に開けている。玄関は2箇所あり、通常は1箇所を使用し、必要な時は2箇所とも使用している。		門も常時開放している状態で、看板をつけている。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や廊下には季節に応じたポスターや小物を飾っている。玄関や洗面台には季節の花を生けている。		左記に加え、天気の良い日には窓を開放し、外の空気が味わえるようにしたり、不必要な大きな音を出さないよう努力している。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	空間の工夫をし、各個人の居場所を確保できる状態になっている。		ソファや椅子があり、それぞれ思い思いの場所で過ごすことができる。また、ユニット間の出入りも自由に行えるようにしている。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に馴染みのものを持参してもらっている。		使い慣れた物に加え、物が散乱することがないように、家族の許可を得て、収納家具を準備するよう配慮している。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに温度調整を行っている。天窓の開閉や加湿器・空気清浄機を使用している。		空調管理は職員が適宜行い、適温に調整している。また、換気を行ったり消臭剤を使用することで、においがこもらないように配慮している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを必要個所に設置。バリアフリーで安全に移動できる。		左記に加え、家具の位置など、入居者の状況に応じて配置換えを行っている。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者の特徴を出来るだけ早く捉え、混乱した時の対応をスタッフが統一できるよう配慮している。		入居者への対応のポイントを捉え、不穏になりにくいよう統一した対応ができるよう努力している。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	中庭には花壇があり、玄関側には椅子をもちいて外気浴などしている。		入居者が手入れをすることは困難ではあるが、花壇を作ったり、日光浴ができるスペースがあり、天気の良い日は外に出て楽しんでいる。

番号	項目	取り組みの成果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
. サービスの成果に関する項目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する番号欄に 印をつけること)	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
		○	少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
100	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
		○	職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
		○	利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が
		○	家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない